





IFCA プロジェクトC

新型コロナの感染拡大によるあなたの生活への影響 についての緊急調査

-過去に社会的養護を経験したことのあるみなさんへ-

2021 年度アンケート調査報告書

2022年3月

目次

は	tじる	めに	. 1
Ι	_	アンケートの実施方法	2
	١.	調査の目的	2
	2.	調査の方法	2
	3.	調査項目と実施時期	2
	4.	倫理的配慮	2
I	1	回答者について	3
	١.	回答者の人数	3
	2.	現在の住まい	3
	3.	年齢	4
	4.	性別	4
	5.	子育ての状況	5
	6.	社会的養護の経験	6
	7.	小まとめ	6
Π	I	調査から見えてくること	7
	١.	食や住まいについて	7
		(1) 生活状況や住まい	7
		(2) 食料	9
	2.	教育の状況	2
		(I) 学歴や就学の状況についてl	2
	3.	仕事と経済面に関する状況	6
		(1)仕事の状況	6
		(2) 年齢と仕事の状況	7
		(3)経済面の状況	8
	4.	心と身体の健康	9
		(1) 長期化による心身の健康への影響	9

(2)長期化の健康管理への影響	20
(3) 孤立・孤独感	21
人とのつながりについて	23
(1) 支えてくれる人とのつながり	23
(2) 家族や仲間とのつながり	24
調査結果からわかる社会的養護経験者の困難さのバリエーション	.26
分析の流れ	26
重複する困難の分類	27
各クラスターの特徴	29
(I) クラスターI:広く困難が重複し、精神的健康への影響が大きい群	29
(2) クラスター2:比較的影響が少ない群	29
(3) クラスター3:食や住まいなど生活上の困難が大きい群	29
(4) クラスター4:解雇を経験し、孤立・孤独感が強い群	30
(5) クラスター5:経済的な困難が顕著な群	30
資料	.32
IFCA のこれまで	32
この調査にかかわった人たち	32
調査内容	33
	(3) 孤立・孤独感

はじめに

2020年に発生した新型コロナ感染症(COVID-19)(以下、新型コロナ)の感染拡大は、何度かの感染拡大、収束を繰り返しながら継続してきました。社会的養護経験者の当事者参画のために活動する私たち IFCA(NPO 法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンス)では、感染拡大の I 年目であった 2020年に新型コロナの感染拡大が当事者にどのように影響を与えているのか、当事者は何に困っているのかを明らかにする調査に取り組み、その結果をもとに社会的養護経験者が新型コロナ禍を生き延びていくために必要なことを提言としてまとめ、報告しました。

2021年には感染拡大も2年目を迎え、New Normal、With コロナという言葉に象徴されるように、長期化し、私たちの生活に大きな変化をもたらしています。そこで2020年に続き、私たちは社会的養護経験者を対象にした調査を実施し、新型コロナ感染拡大の長期化が社会的養護経験者にどのような影響を与え続けているのかについての調査を実施することにしました。

今回の調査は前回の調査時に継続した調査への協力を承諾してくださった方を対象に実施しました。調査内容についても前回調査を踏まえ、長期化がどのように影響しているかを把握できるようなものにすることを検討してきました。同時に、2020 年に開設したウェブサイト「つながろうプロジェクト」(https://www.ifca-projectc.org/)では、調査の実施と並行する形で社会的養護経験者が利用可能な支援情報を紹介してきました。

この報告書では、2020年の調査を踏まえ、2021年の調査で明らかになった状況を報告します。この報告書には含めていませんが、今後、調査で明らかになったことをもとにして提言等を行う予定です。

この報告書に示されているように、この調査からは社会的養護経験者が新型コロナ禍で様々な困難に直面し続けていることが明らかになっています。しかし、その背後には子ども時代に様々な逆境を経験したにもかからず、社会的養護をはじめとする公的な支援を受けず(受けられず)にきた、同様に感染拡大下で困難に直面し続けている方たちも存在します。この調査は社会的養護経験者だけの困難さを示しているのではなく、同じように子ども時代に様々な逆境を経験したそうした方たちの困難さの一部を示したものであるという視点からお読みいただくことも重要だと思っています。

I アンケートの実施方法

1. 調査の目的

新型コロナの感染拡大が長期化する中、当事者ユースがどのような困難を経験しているのか、特に前回調査との比較を行いながら長期化の影響を当事者の「声」をもとに明らかにしていくことを目的として、アンケート調査を実施しました。

この報告書には含まれていませんが、こうした調査結果をもとに、今後、必要な支援や制 度政策についての提言を行う予定です。

2. 調査の方法

調査は web フォームによる質問紙調査によって行われました。対象は昨年実施した前回 調査に回答いただいた方たち 395 名です。前回調査時には「過去に社会的養護を経験した ことのある 16 歳以上 40 歳未満の方」「現在、社会的養護のもとで暮らしている方、措置 延長中の方は対象外」として調査を実施していましたので、年齢は「17 歳以上 41 歳未満 の方」となっています。

前回調査時に提供されたメールアドレス宛に質問紙を送付し、回答をお願いしました。また回答者には謝礼品(電子ギフトカード)が後日送付されました。なお、調査は匿名で実施され、前回調査の内容と今回の調査の内容についても、個人で一致させる情報の収集は行っていません。

3. 調査項目と実施時期

質問項目は前回調査同様、アメリカで実施された調査を参考に I. 基本情報、2. 基本的な衣食住のニーズ、3. 教育、4. 雇用と経済状況、5. 心と体の健康、6. 個人的な人とのつながりの6つのセクションで構成しました。また、答えたくない質問については、拒否できることを明示しました。なお、調査項目は巻末に示しています。

調査は 2021 年7月~8月に実施しました。

4. 倫理的配慮

アンケートの実施については、回答者の安全と人権を守るために、①アンケートへの参加に対する自由意志と拒否権について、②研究参加に伴う負担及び予測されるリスクと利益について、③個人情報の取り扱いについて、④研究に関する資料・情報の開示、研究成果の公表について、⑤研究組織、実施者の連絡先について明示しました。

また、本調査については、武蔵野大学人間科学部研究倫理審査を受けています(申請者: 永野咲 承認番号:2020-02-03)。

Ⅱ 回答者について

1. 回答者の人数

今回のアンケートに回答してくださった方々は、合計 144 名でした。

前回の回答者数は、425名であり、そのうち継続した調査協力が得られ、メールアドレスを回答してくださっていた 395名に今回の調査依頼を行いました。しかし、そのうち60名には宛先不明等の理由によりメールを送ることができず、実際に送付したメールは335通でした。最終的には144名の方からの回答が得られ、その内容をもとに分析を進めることになりました。

2. 現在の住まい

現住住んでいる都道府県は、東京都が最多の 37 名(25.7%)でした。続いて大阪府 15 名(10.4%)、京都府 15 名(10.4%)と、この 3 つの都府で 46.5%を占めていました。このように大都市圏に在住の方の回答が多い傾向があり、20 都道府県からの回答がありました。

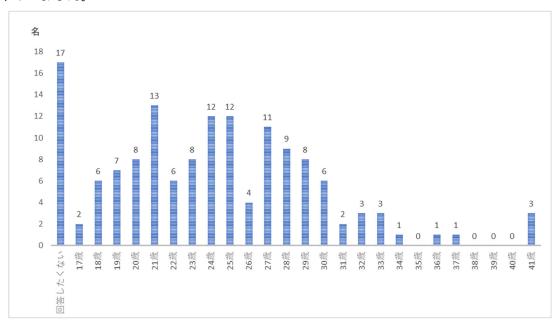
前回調査では、東京都が最多の 8 | 名 (19.1%) でした。続いて、大阪府 45 名 (10.6%)、 福岡県 33 名 (7.8%) となり、37.5%を占めていました。39 都道府県からの回答があり、 全国各地からの回答が寄せられていました。

地方	都道府県	N	%	地方	都道府県	N	%
その他	回答したくない	18	12.5%		新潟県	2	1.4%
-C 07 IB	回答無	1	0.7%		富山県	1	0.7%
	北海道		4.9%	中部	山梨県	1	0.7%
東北	宮城県	1	0.7%	무마	長野県	3	2.1%
	茨城県	1	0.7%		静岡県	7	4.9%
	埼玉県	9	6.3%		愛知県	3	2.1%
関東	千葉県	4	2.8%	中国	山口県	1	0.7%
	東京都	37	25.7%		福岡県	7	4.9%
	神奈川県	1	0.7%	九州	熊本県	1	0.7%
	京都府	15	10.4%		鹿児島県	2	1.4%
近畿	大阪府	15	10.4%	計		144	100.0%
	兵庫県	7	4.9%				

3. 年齡

回答者の年齢で最も多かったのは、21 歳で 13 名 (9.1%) でした。平均は、25.1 歳で、23 歳以下が 46.9%を占めます。

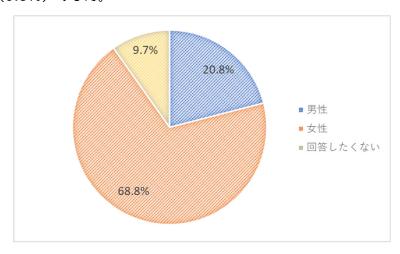
前回調査より、年齢的には高い層が回答していました。前回調査では、回答者の年齢で最も多かったのは、20歳で60名(14.1%)、平均は、22.8歳で、22歳以下で54.2%を占めていました。



4. 性別

性別では、前回調査と同様、女性の回答が多くなっています。

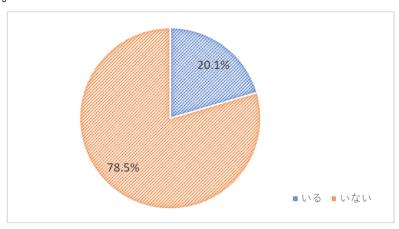
男性 30 名 (20.8%)、女性 99 名 (68.8%)、回答したくない 14 名 (9.7%) でした。 前回調査では、男性 109 名 (25.6%)、女性 297 人 (69.9%)、回答拒否 15 名 (3.5%)、 その他 2 名 (0.5%) でした。



5. 子育ての状況

29 名(20.1%)が同居している・扶養している子どもが「いる」と回答しています。回答者のうち、子育て中の当事者が5名に1名いることになります。

前回調査では、83 名(19.5%)が同居している・扶養している子どもが「いる」と回答していました。



また、同居している・扶養している子どもが「いる」と回答した人の 5 人 (3.5%)が、子育てを代わってくれる人・手伝ってくれる人(配偶者・恋人・自分の親・友人など)がいないと回答しています。前回調査では、18 名 (21.7%)が、子育てを代わってくれる人・手伝ってくれる人(配偶者・恋人・自分の親・友人など)がいないと回答していました。

子育てをめぐる自由記述の内容は以下の通りです。

I. 良い影響/どちらかというと良い影響

- ・0 歳児育児なので、どちらにせよステイホームだったので、生活は変わらなかったと思う。逆に、色んな余暇活動の制限がある中、子供の存在にたくさん笑顔をもらえた。夫の親族にはまだ会わせられていないことは悔やまれるし、夫の親族による新生児期のサポートがもらえなかったことは痛かったが、産後サポートが豊かな自治体だったため、社会サービスに本当に支えてもらうことができ、地域と繋がりながら子育てできた実感を持てた。
- ・仕事が休みの日でも保育園に預けてましたが、コロナ禍になり家で過ごさせる事が多くなり前よりもっと子供と遊ぶ事が出来ました。

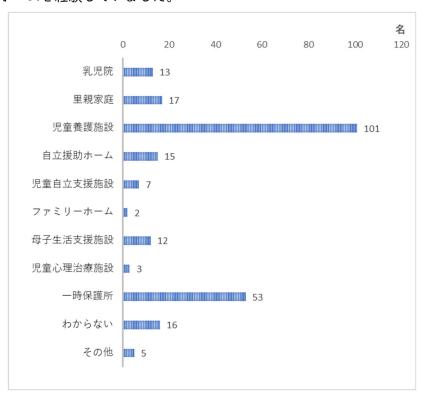
2. 悪い影響/どちらかというと悪い影響

- ・昨年度、緊急事態宣言が出た際に保育園を休ませました。仕事をしながら子育ては本当に大変で負担がかなり大きくありました。しかし、子供との時間が少し増えたおかげで、解除後子供は保育園に行くのが大好きになり、楽しんで行っています。しかし、コロナのお陰で経営難ですし、どこにも行けないので子供にはかわいそうな日々を過ごさせています
- ・小学校が休校になり、給食がない間食費がかかり、休校で外出出来ないストレスで子供は常にイライラしてるし、家庭内は不和でした。
- ・不特定多数集まる箇所に遊びに行くことができず、子どもの遊びの選択肢が狭くなってしまった。
- ・立ち合い出産や母親教室など全て中止になり子育てに関する情報源がほとんど無い

6. 社会的養護の経験

社会的養護の経験を複数回答で尋ねました。最も多い回答である児童養護施設は IOI 名 (71.1%) が経験しています。ついで、53名 (37.3%) が一時保護所を経験しています。ただし、一時保護経験者には、児童養護施設等の施設入所措置や里親委託になった人と、家庭引き取りになった人の両者がいると考えられます。I2.0%が里親家庭、9.2%が乳児院、I0.6%が自立援助ホームを経験しています。

前回調査では、最も多い回答は児童養護施設 340 名(80.0%)であり、ついで、130 人(30.6%)が一時保護所を経験していました。12.0%が里親家庭、10.8%が乳児院、9.6%が自立援助ホームを経験していました。



7. 小まとめ

ここまで見てきたようにひとことで社会的養護経験者と言っても年齢や性別、経験してきた社会的養護や現在の生活状況は多様です。ここから先の調査結果は、そうした多様さを超えて社会的養護経験者に共通する困難さとはどのようなものなのか、あるいはその多様さはどのように感染拡大下の困難と関係しているのかという視点からご覧下さい。

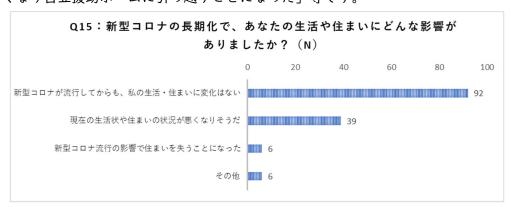
Ⅲ 調査から見えてくること

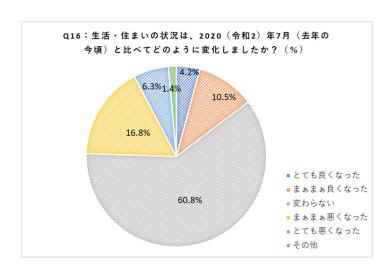
1. 食や住まいについて

(1) 生活状況や住まい

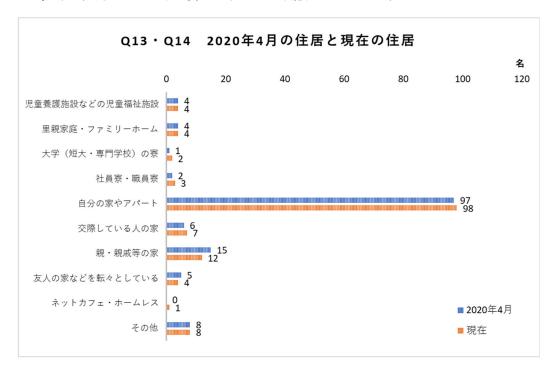
92名(63.9%)が、生活状況や住まいの状況に変化がないと回答しているものの、45名(31.3%)にネガティブな影響(現在の生活状況・住まいの状況が悪くなりそうだ・新型コロナの影響で住まいを失うことになった)があると回答しています。前回調査では、92名(21.7%)が、生活状況や住まいの状況にネガティブな影響があると回答していました。Q16の生活・住まいの状況の変化も「とても良くなった」6名(4.2%)、「まぁまぁ良くなった」15名(10.5%)、「変わらない」87名(60.8%)、「まぁまぁ悪くなった」24名(16.8%)、「とても悪くなった」9名(6.3%)と回答されています。Q16からも33名(23.0%)にネガティブな影響があることがわかります。

その他の回答からも深刻な状況もうかがえます。例えば、「家族から避難して暮らしていた恋人との関係が悪くなり転居しなくてはいけない状況になり、通学していた学校を休学する等生活全般に影響と混乱があった」、「摂食障害が悪化し入院し、最終的に祖母の家で住めなくなり自立援助ホームに引っ越すことになった」等です。

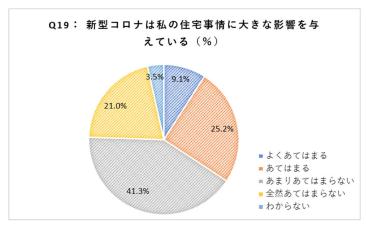




現在の住居で最も多いのは、「自分の家やアパート」98名 (68.1%) である。一方、2020年4月と調査実施時の現在 (2021年7月時点) においても「友人の家などを転々としている」「ネットカフェ・ホームレス」が5名 (3.5%) おり、居住先がないという非常に厳しい状態にある。また、5名 (3.5%) が暮らしている大学の寮や社員寮・職員寮は学業、および雇用の状況によって、退居を迫られる可能性もあります。

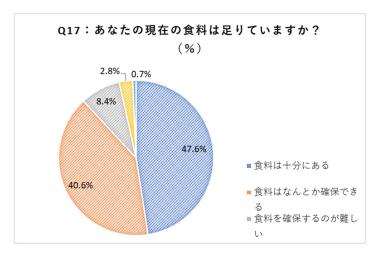


住宅事情に大きな影響がありますかという質問に対し、「よくあてはまる」との回答が 13名 (9.1%)、「あてはまる」36名 (25.2%)、「あまりあてはまらない」59名 (41.3%)、「全然あてはまらない」30名 (21.0%)、「わからない」5名 (3.5%) でした。

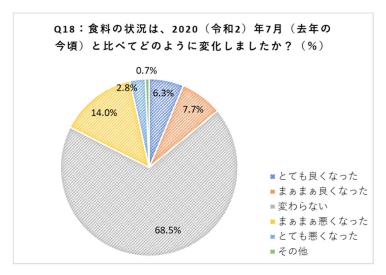


(2) 食料

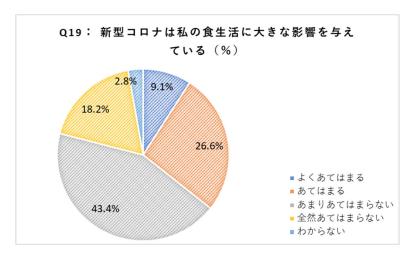
「食料は十分にある」と回答した 68 名(47.6%)と「食料はなんとか確保できる」と回答した 58 名(40.6%)と特に不自由なく食料を得ている回答者が 8 割を超える一方で、 I 割程度が非常に厳しい状況に置かれていました。「食料を確保するのが難しい」と回答したのは 12 名(8.4%)、「食べ物がない。ピンチです」と回答したのは 4 名(2.8%)でした。



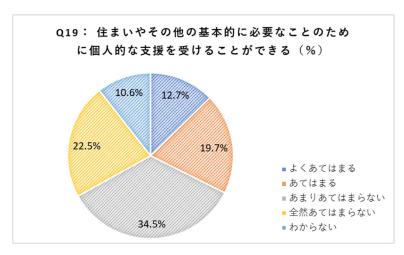
これらの状況は、食料の状況にかかわる変化を「とても良くなった」9名 (6.3%)、「まぁまぁ良くなった」11名 (7.7%)、「変わらない」98名 (68.5%) と回答した人が多くを占める一方で、「まぁまぁ悪くなった」と回答した 20名 (14.0%)、「とても悪くなった」と回答した 4名 (2.8%) と回答した 16.8%の状況が非常に深刻でした。



新型コロナの影響を大きく受けていることに関連して、「よくあてはまる」と回答したのは 13 名 (9.1%)、「あてはまる」と回答したのは 38 名 (26.6%)、「あまりあてはまらない」と回答したのは 62 名 (43.4%)、「全然あてはまらない」と回答したのは 26 名 (18.2%) でした。



ここまで見てきた住まいや食料と生きるのに欠かせないさまざまな資源を得る上で、個人的な支援について尋ねたところ、「よくあてはまる」と回答したのは 18名 (12.7%)、「あてはまる」と回答したのは 28名 (19.7%)、「あまりあてはまらない」と回答したのは 49名 (34.5%)、「全然あてはまらない」と回答したのは 32名 (22.5%) でした。実際の支援ニーズは分からないが、支援を受けることができないと考える層が半数 (57.0%) を占めています。



新型コロナの長期化が食や住まい、生活に与えた影響について自由記述の内容は以下の通りです。

1. 勤務時間が削減されたことによる生活全般への影響

- ・バイトが少なくなって辞めた。新しいバイトしてるものの収入が少なくて電気とガス止まっている家 賃も滞納してしまってる
- ・親が家にいる時間も長くなり、ストレスを感じることが多々。
- ・稼ぎが減って、副業として夜の仕事をせざるを得なくなった
- ・給料が減ったため家賃が払えない
- ・緊急事態宣言や蔓延防止等の処置により仕事が出来ず、給料が格段に減った為、かなり切り詰めた生活を送らざるを得なかった。
- ・現在住んでいるアパートは2年ごと、更新する度に保証人の記入欄があり、書いてもらわなければいけない。コロナによっての関係悪化により両親と絶縁することになり、今まで通り保証人欄に書いてもらえなくなり更新ができないととても心配。他の福祉系アパートに入居できないのは犬を飼っているから。 また、2020年2月以降、コロナで仕事がなくなったため2020年の確定申告で申告している収入はほぼなし、よって保証会社を利用することもできない。
- ・現在祖父母の家に住んでいるが給料が少なくなり、食費などを渡すのが難しくなっている。また、自 分の服なども買えなくなって困っている

2. 食への影響

- ・1日1食か2食になりました。
- ・給料が減ったので衣服は買えなくなり、家賃の支払いは遅れがちになり、ご飯の品数が減り、休日は 食事の回数が減りました。
- ・外食の機会が減り自炊ばっかりで息抜き出来るタイミングが無い
- ・緊急事態宣言などが出ると、子供が家にいるので昼食を作らなくてはならないので少し負担が増えま す。

3. どちらかというと良い影響

- ・家にいる時間が増え家事や在宅ワークが前より出来るようになったためストレスが少なくて良い生活が送れている。
- ・今までは非常勤で夢を優先していた為、コロナが流行り夢を追いかけることが厳しくなって職場の勤務数も減り給料が大幅に少なくなって辛い時期があった。 今は完全に夢を諦め、新しい会社で正社員雇用してもらい生活が楽になった。

4. その他

・マスクやアルコールの出費など金銭面と都心への出勤で精神的な負担も増えたように感じています。 子育て世帯への給付金制度などはありますが単身世帯への支援はほぼなく頼れる親戚もいないため家 を失った若者のニュースが他人事で時はなく出費を出来る限り抑えて生活してますが不安で2時間お きに目が覚めるなどコロナ長期化により去年より辛い生活になりました。

2. 教育の状況

(1) 学歴や就学の状況について

最終学歴については、「短期大学・専門学校・大学中退」した人が II 名 (7.6%)、「高校中退」した人が 7 名 (4.9%) と、あわせて I2.5%もの人の最終学歴が「中退」であることがわかりました。回答者層のそもそもの背景として、教育に向き合う状況が整わない、環境が安定していない様子が示唆されます。

最終学歴	N	%
中学卒業	8	5.6%
高校在学中	5	3.5%
高校中退	7	4.9%
高校卒業	38	26.4%
高卒認定資格	7	4.9%
短期大学・専門学校・大学在学中	21	14.6%
短期大学・専門学校・大学中退	11	7.6%
短期大学卒	5	3.5%
専門学校卒	14	9.7%
大学卒	22	15.3%
大学院修了	2	1.4%
その他	3	2.1%
無回答	1	0.7%
合計	144	100.0%

感染拡大が流行する前(2019 年 12 月頃)の教育の状況として、何らかの教育機関に在籍していた人は 43 名(29.9%)でした。一方、今回の調査時点(2021 年 6、7 月)での教育の状況として、何らかの教育機関に在籍していた人は 26 名(18.6%)でした。内訳は以下の通りです。

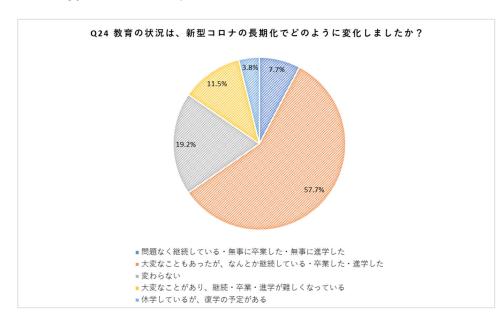
年度にすると 2 年間が経過しているために、単純に多くの人が通っていた学校を卒業し、進学や就職をしたことにより「どの教育機関にも所属していない」という人の割合が増加したと思われますが、上の最終学歴が中退である人たちの多さを考えると、この間に中退という選択をせざるを得なかった人たちも一定数含まれていると推測されます。自由記述の中には「学びたいが叶わない」といった回答も見られました。

\22.4H D+	感染拡	大前	現在		
選択肢	N	%	N	%	
中学校に通っていた	1	0.7%	0	0.0%	
高校に通っていた	15	10.6%	5	3.6%	
職業訓練に通っていた	4	2.8%	0	0.0%	
大学・短大・専門学校・大学院に通っていた	18	12.7%	17	12.1%	
通信制・夜間の大学・短大・専門学校・大学院に通っていた	5	3.5%	4	2.9%	
どの教育機関にも所属していない	90	63.4%	105	75.0%	
その他	9	6.3%	9	6.4%	
슴計	142		140		

では、感染拡大下でいずれかの教育機関に在籍していた人たちの教育状況はどのようなものだったのでしょうか。今回の調査回答時点でいずれかの教育機関に在籍している人たちに感染拡大の長期化による影響を尋ねたところ、多くの人たち(15名、57.7%)が「大変なこともあったが、何とか継続している・卒業した・進学した」と回答しています。一方で3名(11.5%)が「大変なことがあり、継続、・卒業・進学が難しくなっている」と回答し、休学したと回答した人も | 名見られました。このように、何とか乗り越えてきた方も含めて、およそ7割の人が感染拡大の長期化により教育を受け続けることに関してネガティブな影響を受けていることがわかりました。

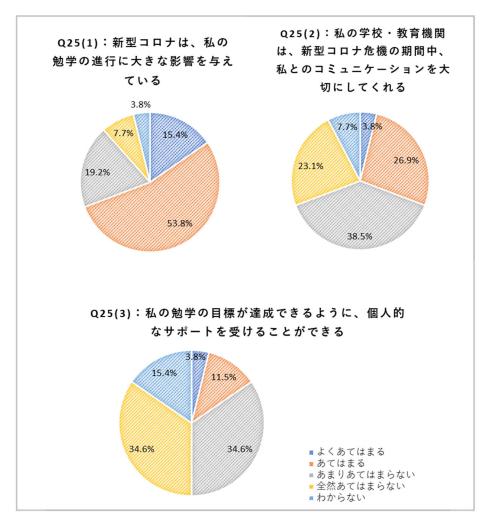
困難さに関する要因としては経済的状況悪化により学費捻出が困難になった等の可能性が想定される他、自由記述で「進学や就職などできる体力気力がない」との声が挙がったことからも、精神的に追い詰められている状況も想定されます。

なお、今回の調査は前回の調査から引き続いて行われ、同一の回答者に回答を求めているものです。つまり、回答が困難な状況に陥った人たちはこの調査には回答しておらず、相対的に安定した人の回答がこうした結果に反映されている可能性もあります。特に重篤な影響を受けている人は、そもそも今回のアンケートに回答しづらい状況にあったという点を考慮しておく必要があるでしょう。



続けて、今回の調査回答時点でいずれかの教育機関に在籍している人たちに教育状況の詳細を尋ねました。「新型コロナは、私の勉学の進行に大きな影響を与えている」の問に対しては、「よくあてはまる(15%)」「あてはまる(27%)」と回答した人があわせて 4 割強と、半数近くの人々が大きな影響を受けていることがわかりました。一方、「私の学校・教育機関は、新型コロナ危機の期間中、私とのコミュニケーションを大切にしてくれる」の問いに対しては、「全然あてはまらない(23%)」「あまりあてはまらない(38%)」と回答した人

があわせて 6割でした。また、「私の勉学の目標が達成できるように、個人的なサポートを受けることができる」の問に対しては、「全然あてはまらない(35%)」「あまりあてはまらない(35%)」と回答した人があわせて 7 割にも上りました。教育機関に在籍する半数近くの人たちが感染拡大により就学上の困難さを経験しているにも関わらず、困った時に相談したり、個人的にサポートを受けたりするような機会、体制が不足している状況にあることがうかがえます。

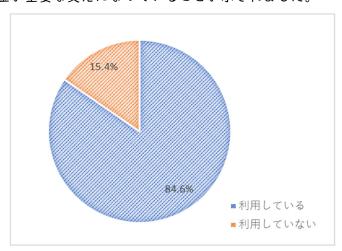


さらに感染拡大下では多くの授業がオンラインを活用して行われることになりました。こうした対応は感染拡大を防ぐうえで非常に重要な対応であった一方で、インターネット環境やそこに接続するデバイス、あるいはそうしたものを使って授業に参加できるような静粛な環境が準備できることが前提となっている面があります。そこで、そうした学習上必要な機材や環境の整備状況を尋ねました。

その結果、スマホ・携帯電話は多くの人が利用可能でしたが、ネット環境、PC や集中できる環境は 3~4 人に | 人程度の人がない、あるいは使えないときがあると回答し、オンライン授業に参加することが難しいときもあることがわかりました。

	スマホ・携帯電話		ネット環境		PC		授業に集中できる空間	
	N	%	N	%	N	%	N	%
いつでも使える	24	92.3	19	73.1	18	69.2	19	73.1
使えない時がある	1	3.8	5	19.2	1	3.8	4	15.4
ない	1	3.8	2	7.7	7	26.9	3	11.5
計	26		26		26		26	

今回の調査回答時点でいずれかの教育機関に在籍している人たちに奨学金の利用状況を 尋ねたところ、22 名(84.6%)が奨学金を利用していると回答し、社会的養護経験者が就 学するとき、奨学金が重要な支えになっていることが示されました。



新型コロナの長期化が教育の状況に与えた影響ついて自由記述の内容は以下の通りです (今回の調査回答時点でいずれかの教育機関に在籍している人たちの回答より)。

1. 人に会えない、オンラインの孤独

- ・授業に参加する姿勢が変わった。課題を出せばなんとかなると思ってしまい、授業を全く聞かなくなった。なんのために大学にいるのか分からなくなることが以前より増えた。
- ・新型コロナの影響でなかなか登校することができないことが | 番のマイナスだと思います。

2. 経済的な痛手

・実習などもありコロナのためアルバイトを禁止されている

3. 環境の不安定さ

・オンライン授業になり、パソコンも無いため不便な事が多かった。

4. 理解の遅れ・教育内容レベルの低下

- ・オンライン授業となり学校へ行く日が少なくなった。しかし学費は変わらない。
- ・遠隔授業が増え、勉強について行くのが大変

5. メリット

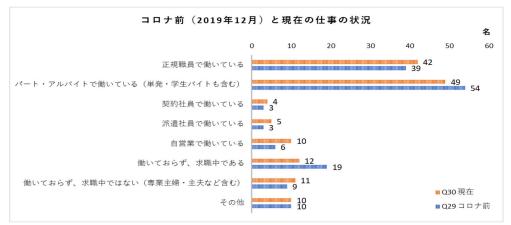
・オンライン講義になったことで、体力面と精神面の負担が軽減されたように感じるので、そこは良かったです。また対面テストが実施できなくなった影響で、単位習得も比較的楽になったように感じます。

3. 仕事と経済面に関する状況

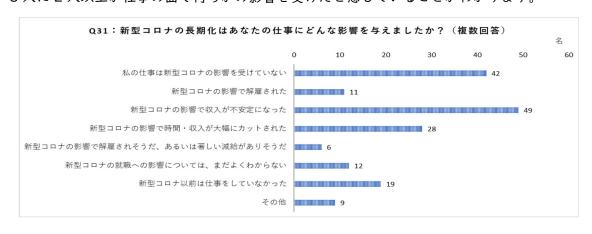
(1) 仕事の状況

感染拡大前(2019年12月頃)の仕事の状況として最も多かったのは、パート・アルバイトで全体の約4割(54名)を占め、正規職員で働いていた人よりも1割(15名)ほど多い結果となりました。また、働いておらず求職食中であった人は19名(13.3%)で、大学などの教育機関に在籍していると回答した人が26人であったことを考慮したとしても、新型コロナ流行以前から安定した勤務状態で働いていた回答者は全体の3割に満たず、社会状況の変化に影響を受けやすい状況で働く回答者が多かったことが示唆されています。

現在(今回調査時点:2021年7、8月)の仕事の状況と比較してみると、現在の方が正 規職員数は微増し、パート・アルバイトで働いている数は減少しています。これは、2つの 調査の間に年度を超えたため、この間に教育機関等を卒業し、新たに就労した数を含んでい るためだと考えられます。



新型コロナの長期化が仕事にどのような影響を与えたかを尋ねたところ、「収入が不安定になった」という回答が最も多く 49 名 (35.0%) が該当すると回答しました。また、収入が大幅にカットされたと答えた人は全体の 2 割を占め、中には解雇された人も 11 名いました。「私の仕事は新型コロナの影響を受けていない」と回答した人は 42 名 (30.0%) で、3 人に 2 人以上が仕事の面で何らかの影響を受けたと感じていることがわかります。



(2) 年齢と仕事の状況

回答者を 21 歳以下、22 歳~30 歳、31 歳以上という 3 つの年齢層に分けて仕事の状況を見てみたところ、「私の仕事は新型コロナの影響を受けていない」という回答については年齢による差が見られました($\chi^2=5.82$ 、p<.1)。詳しくみてみると、22 歳~30 歳(35.6%)、31 歳以上(35.7%)の人たちに比べ、21 歳以下の人たち(13.9%)は影響を受けていないという回答者の割合が低く、若年層の方が仕事の面で影響を受けている可能性があることがわかりました。

同様に「新型コロナ長期化の影響で収入が不安定になった」という回答も 21 歳以下 (61.1%) では 22 歳~30 歳(26.0%)、31 歳以上(35.7%)に比べて該当者の割合が 高い傾向にありました($\chi^2=12.70$ 、 p<.01)

以下に示した自由記述からは、解雇を始めとして、様々な形でコロナ禍が仕事の状況、雇用に影響を与えていることがわかります。特に正規雇用でない場合にはその影響が大きかったことがうかがえます。

1. 新型コロナ感染症の罹患と関連づけられた解雇

- ・インフルエンザだったのにコロナと誤認されクビになりました
- ・コロナが流行ってきて私自身がチック症で咳払いが出てしまったため その時はスーパーのレジ打ち をしていたが周りの目もあるということで職場から解雇を言い渡された。

2. 雇用形態が非正規雇用による不当な解雇や勤務時間の削減

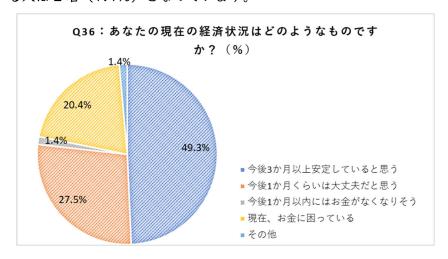
- ・人数削減のため、アルバイトの自分のみ解雇された。」
- ・警備業のため、単発の学生が最初にきられた。」
- ・正規職員ではないことを理由に、出勤を減らされ手取りが大幅に減った。生活がままならなくなり結 局辞めざるを得なかった。
- ・事前報告もなく派遣登録先の会社の社長に現場をきられた。尚且つ、月給を6割支給にさせられた。
- ・非常勤の社員は全く呼ばれなくなり、給料が大幅にカットされ生活が苦しくなった。

3. コロナ禍の影響で解雇や勤務時間を削減

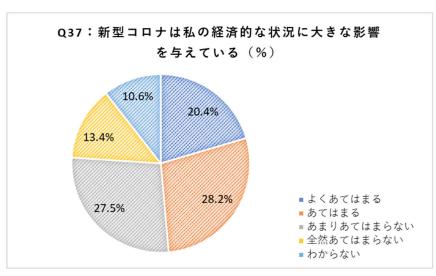
- ・暇になりすぎて仕事を与えてもらえないので苦痛だった。
- ・社の仕事が無くなり実質解雇されたが自己都合となった。
- ・休職からの復帰の延長
- ・会社都合でシフトを取り消され、休業補償金が支払われず、申立すると、自己都合退職届けの提出と 休業補償金を引き換えにする旨の不適切な対応があった。
- ・日数減らされたり、早上がり

(3) 経済面の状況

現在の経済状況を尋ねる質問で、「今後 3 カ月以上安定していると思う」と回答した人は70 名(49.3%)と回答者の半数に満たないことが示されました。特に、現在お金に困っている人は29 名(27.5%)、今後 | カ月以内にお金が無くなりそうというかなり切羽詰まった状況にいる人は2名(1.4%)となっています。



感染拡大の長期化が経済状況に与えた影響を尋ねたところ、半数くらいの人が影響があったと答えており(「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせて 48.6%)、影響があまりなかった、なかった回答者(「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の回答者)を合わせた 40.9%よりもわずかながら多くなりました。これらの結果は、感染拡大長期化が一様に社会的養護経験者に経済的困難をもたらしたというよりも、経済的に困難な状況に陥った人と、そうでなかった人とに二極化した状況があることを示唆するものです。これらの差が、どのようなリスク要因、あるいは保護要因によってもたらされたのかについての検討が必要です。



仕事の状況や経済面に与えた影響、あるいは受けたサポートなどについての自由記述の内容は以下の通りです。

1.「なんとか」生活をしている状況

- ・消費者金融でお金を借りた
- ・飲食店が休業となり収入が安定しなくなった。だが、定額支給のアルバイトでなんとか生活している。
- ・食糧支援は数回受けた。何回も自治体の生活支援課に行ったが一時支援金などの情報は全く教えてもらえず、SNSで知った。パソコンさえあればできる仕事も増えるが購入する余裕がない、家にあるものを修理しても4万円はかかると言われて、できる状況ではない。
- ・奨学金を生活費に回す生活がありました。

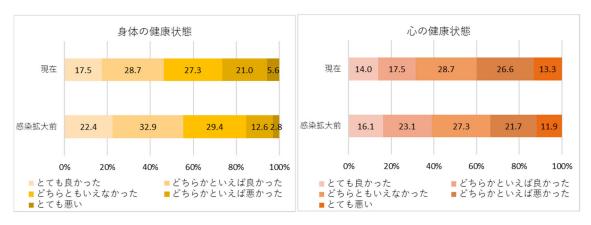
2. 経済的な苦境がメンタルヘルスに影響を与えている

- ・コロナが流行しだした時はみんなが仕事を探しているので全然仕事が見つからなかった。仕事も無く 正直死を決めた時もあった
- ・コロナの影響で精神的に働けなくなった時期がありましたが今は大丈夫です。

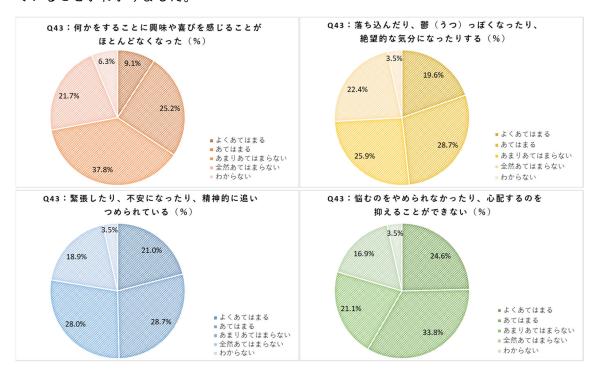
4. 心と身体の健康

(1) 長期化による心身の健康への影響

感染拡大前(2019 年 12 月)と現在(2021 年 6~7 月)の心身の健康状態について尋ねたところ、身体の健康状態については感染拡大前には「とても悪い(かった)」「どちらかと言えば悪い(かった)」を合わせると 22 名(15.4%)であったのに対して、現在は 38 名(26.6%)と悪化した傾向にあることが分かります。また、心の健康状態では同じく感染拡大前が 48 名(33.6%)であったのに対して、現在は 57 名(39.9%)とこちらも悪化している様子が分かります。

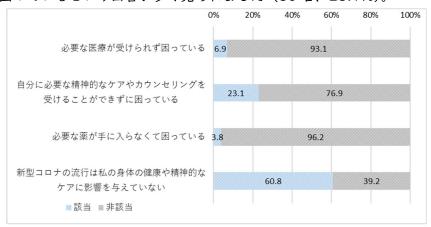


また、調査に回答してもらった2週間ほどの間のメンタルヘルスの状態について詳しく尋ねました。その結果、前回調査と大きな変化はなく、半数程度の方が不安や抑うつを経験していることがわかりました。



(2) 長期化の健康管理への影響

感染拡大が長期化する中、心身の健康を保つために医療機関や相談機関などを利用することにどのような影響が出ているのかを尋ねたところ、精神的なケアやカウンセリングが受けられずに困っているという回答が多く見られました (30名、23.1%)。



自由記述にもそうした困難さが多く示されていますが、感染拡大を受けてオンライン診療 をしてくれる精神科ができたので受診しやすくなったという肯定的な側面について指摘す る声も見られました。

1. 健康状態が悪化している

- ・コロナ禍の生活で心が疲れることが多くなった
- ・人間と接する機会がなさ過ぎて自分の生い立ちのことを急に振り返ってしまって自分の人生を生きたくなくなる (メンヘラになる) 時間が頻繁にやってきて仕事のことも続けていけるのか不安になる。

2. 医療機関や相談機関に行きづらい、いけない

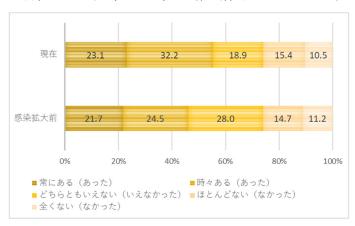
- ・コロナ以前に病院はいけない。先生が医療トラウマでこわいため。その支援はない。市役所に相談しても。はねのけられる
- ・感染リスクを考えると、気軽に病院に行きづらくなった。
- ・大学時代は学生相談室に通うことで乗り越えていたのに、社会人になり学生相談室的な場所にかかれなくなり、今後そうした不安に駆られた際にどうしていけば良いのか途方に暮れている

3. 受診のハードルが下がった

・複雑性 PTSD の治療をしてくれている病院が、Zoom で遠隔診療をするようになり、コロナ前よりも受療のハードルが下がった。

(3) 孤立・孤独感

これまで行われてきた様々な調査で、社会的養護経験者の多くが社会的養護を離れた後に強い孤立・孤独感を経験していることが指摘されてきました。そこで感染拡大が長期化する中で孤立・孤独感がどのように変化しているかを把握するために、感染拡大前(2019年12月)と現在(2021年6、7月)の孤立・孤独感をそれぞれ尋ねました。その結果、常にある(あった)、時々ある(あった)という回答を合わせると感染拡大前は66名(46.2%)であったのに対して現在は79名(55.3%)と増加傾向にあることが示されました。



こうした孤立・孤独感にはどのようなことが影響を与えているのでしょうか。ここでは調査の時期(感染拡大前 - 現在)、性別(男 - 女;「回答したくない」と回答した方は分析から除外)、学歴(中・高卒 - 大学等卒)という3つの視点から考えてみることにしました。

まず感染拡大前と現在とで孤立・孤独感の強さに差異が見られるかに目を向けてみましたが、両者の間で顕著な差は見られませんでした。次に性別に目を向けてみると、男性よりも女性の方が孤立・孤独感を強く感じていることが分かりました。さらに学歴という視点から見てみると、大学や短大、専門学校等卒業の人よりも中学卒業・高校卒業の人の方が孤立・孤独感を強く感じていることが分かりました。

さらに性別と学歴を掛け合わせてみると、大学や短大、専門学校等を卒業の男性よりも中学卒業・高校卒業の男性の方が孤立・孤独感が強く、男性では学歴の高さが孤立孤独感を緩和する要因になっている可能性が示唆されました。一方、女性では学歴による差は見られず、男性とは異なり、女性の場合には必ずしも学歴の高さが孤立孤独感を緩和する要因とはならないことが分かりました。さらに大学や短大、専門学校等を卒業の男性と大学や短大、専門学校等を卒業の女性を比較すると、女性の方が孤立・孤独感が強いこともわかりました。

こうしたことをもとに考えてみると、まず社会的養護経験者の孤立・孤独感は感染拡大長期化の影響を受けているわけではないようです。しかし、性別や学歴など社会的に弱い立場に置かれやすい特徴を持つ人ほど孤立・孤独感がもともと強く、それは感染拡大が長期化しても変わらずに一貫しているということが分かります。言い換えれば、もともと孤立・孤独感を強く感じていた人はずっとそれが続いているといったように、感染拡大に関わらず困難な人はずっと困難さの中にいることを余儀なくされていると言えるのかもしれません。

		男性			女性			全体	
	中・高卒	大卒	全体	中・高卒	大卒	全体	中・高卒	大卒	全体
成沙林上芒	2.56	3.75	3.07	2.59	2.84	2.65	2.58	3.14	2.75
感染拡大前 (2019年12月)	(1.26)	(1.36)	(1.41)	(1.30)	(1.18)	(1.27)	(1.29)	(1.29)	(1.31)
(20194127)	16	12	28	73	25	98	89	37	126
	2.63	3.75	3.11	2.45	2.44	2.45	2.48	2.86	2.60
感染拡大後	(1.15)	(1.36)	(1.34)	(1.34)	(1.23)	(1.31)	(1.31)	(1.40)	(1.34)
(2021年6月)	16	12	28	73	25	98	89	37	126
	F	р		多重比較の終	吉果				
時期	0.79	.375 r	1.S.						
性別	5.37	.022 *		男性>女性					
学歴	6.24	.014 *		大卒>中・高	亭				
時期*性別	1.27	.263 r	1.S.						
時期*学歴	0.37	.542 r	1.S.						

男大卒>男中・高卒, 男大卒>女大卒

性別*学歴

時期*性別*学歴

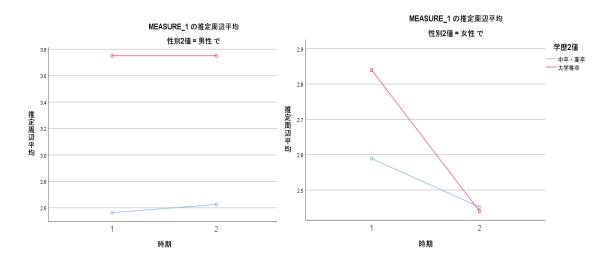
4.12

0.14

.044 *

.707 n.s.

()内は標準偏差



感染拡大の長期化が心身の健康や健康管理に与えた影響に関する自由記述の内容は以下 の通りです。

1. 不安、うつ、悲しさなど

- ・毎日死にたい気持ちが消えないけれど誰にも相談出来ずに辛い
- ・鬱が悪化しました。

2. 睡眠、体調に関すること

- ・凄く考えてしまう事が多くなり、寝るのに時間が掛かったりした。
- ・不眠症になり、3日以上一切睡眠が取れない日が続いている。
- ・コロナにかかるのではないかと不安になっていた時期があった
- ・心配なことが増え、よくお腹を壊すようになった

3. 将来の不透明さ

- ・希望が見えない
- ・このまま一人暮らしの生活ができるのかが不安でした。
- ・この先、一生、ひとりなのではないかと不安に駆られることがふとした瞬間に多々訪れる。

4. つながりの喪失、孤立・孤独感

- ・人との関わりが減って精神不安定になった
- ・友人などとの対面での接触が無くなり、イベントなども中止になったりしているので、寂しい。

5. 必要なケアが受けられない

- ・親にも頼れないので、誰にも相談する人がいなくて辛い。最近は精神が不安定になっている。精神科 にも通っているが病院に行く気力が無くしんどい。
- ・精神科に行き診察をしたのは良いが、ウチでは手に負えないので大きい病院に行ってくれと言われ紹介状も書いてくれず、周りの精神科に電話かけたりしているが予約がたくさん入っているため診察できない

6. 肯定的な内容

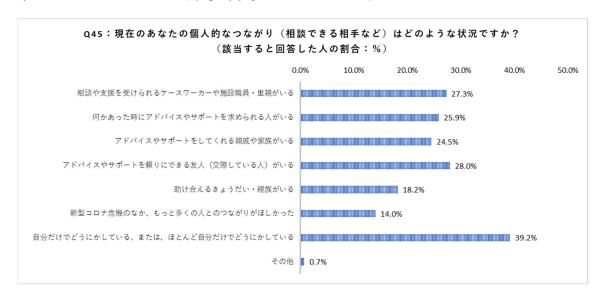
- ・コロナ禍以前から虐待の後遺症の心理治療をしていた。人に会わないことをよしとする社会の空気感の中で、引きこもり、人と自分を比べようもない状況の中でトラウマ治療に全力で向き合えたことは、 逆に幸運だったと思ってる。
- ・人と関わらなくて済むのでよい

5. 人とのつながりについて

(1) 支えてくれる人とのつながり

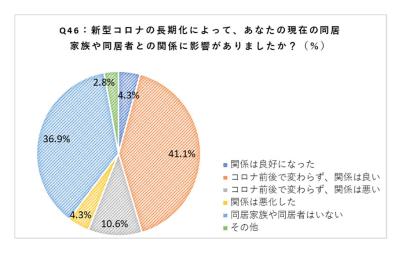
感染拡大が長期化する中で生活、就学、就労、健康管理など様々な困難を経験している社会的養護経験者たちが、この困難を乗り越えるためには支えとなる人たちとのつながりが重要な意味を持つと思われます。そこで支援してくれるような人との間にどのようなつながりがあるのかを尋ねてみたところ、およそ4割(56名;39.2%)が自分だけでどうにかしていると回答し、困難が長期化する中で孤軍奮闘している様子が示唆されました。一方でケースワーカーや施設職員、里親のように自身が社会的養護にいる時に得たつながりを維持している人は3割(39名;27.3%)にも満たないことも示されています。感染拡大の長期化は社会的養護経験者がケアを離れた後にどのようにつながりを維持したり、新たに構

築したりするかについての問題も提起しているようです。



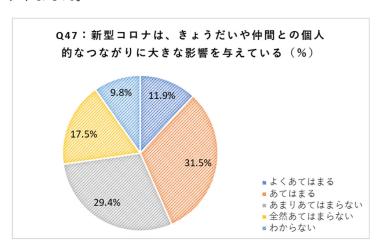
(2) 家族や仲間とのつながり

感染拡大の長期化に伴い、同居家族や同居者との関係がどのように変化したかについて尋ねたところ、まず 52 名(36.9%)は同居家族・同居者がないと回答されました。また、58 名(41.1%)が感染拡大前と変わらず関係はよい、15 名(10.6%)が感染拡大前と変わらず関係が悪いと回答しています。感染拡大が長期化する中で関係が良好になった、あるいは悪化したと回答した方は両方とも 6 名(4.3%)ずつで、長期化が肯定的、否定的双方の影響を与えていることが示唆されていますが、何がその分岐点になったのかについてはこの調査では明らかになっていません。

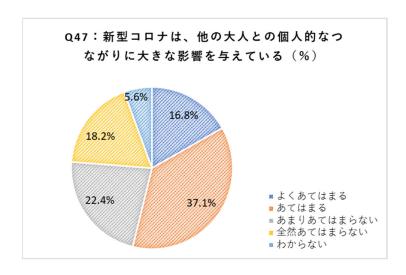


きょうだいや仲間といった若者にとって身近な人たちとのつながりに対する感染拡大の影響(大きな影響を与えている)を尋ねたところ、「よくあてはまる」と回答したのは 17名(11.9%)、「あてはまる」と回答したのは 45名(31.5%) に上り、約43%の人が感染

拡大が長期化したことによりきょうだいや友人などとの横のつながりに大きな影響を受けていることがわかりました。



また、家族やきょうだい、仲間よりも少し広くおとなどの関係への影響(大きな影響を与えている)を尋ねたところ、「よくあてはまる」と回答したのは 24 名 (16.8%)、「あてはまる」と回答したのは 53 名 (37.1%) に上り、半数以上が新型コロナウィルスの長期化により、周囲の大人とのつながりに影響を受けていることがわかりました。



Ⅳ 調査結果からわかる社会的養護経験者の困難さのバリエーション

1. 分析の流れ

今回の調査では食、住まい、就学、就労、健康… 様々な側面から社会的養護経験者が、 感染拡大が長期化する中でどのように暮らしているかを理解することに努めてきましたが、 ここでは、「重複」という視点から考えてみたいと思います。

まず調査項目を見直し、住まい、食料、教育、就労、経済、身体的健康、精神的健康、孤立・孤独感という 8 項目を困難さの指標、ハイリスク項目(HL 項目)として選びました。そしてこれらの項目について、例えば「住宅事情に大きな影響を与えている」という質問に対して「よくあてはまる」、「現在の心の健康状態」について「とても悪い」というように困難さを強く表している回答をハイリスク回答(HL 回答)としてその個数をカウントしました。その結果、79 名 (54.9%) の人はひとつも HL 回答がありませんでしたが、逆に II.8% (17 名) の人は 3 つ以上 HL 回答が重複していました。そこで、ここでは便宜的に HL 回答が 3 つ以上の方をハイリスク回答者 (HL 者) として分析を進めることにしました。

HL項目の個数	度数	パーセント	累積パーセント
0	79	54.9	54.9
1	31	21.5	76.4
2	17	11.8	88.2
3	8	5.6	93.8
4	6	4.2	97.9
5	1	0.7	98.6
6	2	1.4	100.0
7	0	0.0	100.0
8	0	0.0	100.0
合計	144	100.0	

	度数	パーセント
non-HL者	127	88.2
HL者	17	11.8
合計	144	100

2. 重複する困難の分類

次にどのような人たちがどのような困難さを重複して経験しているかを検討するために、 HL項目をもとにクラスター分析を行いました。クラスター分析は同じような項目に HL 回答をした人同士を結び付けていくことで回答者をいくつかのタイプに分類していく方法ですが、分析の結果をもとに、ここでは 5 群に分けることにしました。

まずこれら5つのクラスター (CL) の HL 項目の個数に目を向けると、最も多かった CLI では平均が 3.13 個であった一方で、最も少なかった CL2 では 0.02 個とほとんどなく、一言で社会的養護経験者と言っても感染拡大が長期化する中で経験している困難の深刻さや重複具合には大きな違いがあるようです。

				HL者の原	E数		
		CL1	CL2	CL3	CL4	CL5	合計/全体
	度数	16	81	13	19	15	144
	全体に占める割合	11.1	L 56.3	9.0	13.2	10.4	100.0
	HL項目の個数(平均/個)	3.13	0.02	2.15	1.58	1.33	0.90
Q19-1	住宅事情に大きな影響を与えている	3	0	10	0	0	13
Q19-2	食生活に大きな影響を与えている	5	0	8	0	0	13
Q24	教育の状況	2	2	0	0	0	4
Q31-2	解雇された	1	0	1	9	0	11
Q36	現在の経済状況	7	0	4	3	15	29
Q41-1	現在の身体の健康状態	7	0	1	0	0	8
Q41-2	現在の心の健康状態	16	0	0	3	0	19
Q50	現在の孤立孤独感	9	0	4	15	5	33
		精加	立 影	生	孤 解	△ 経	
		神(響	活	立 雇	顕済	
		的图	图 低	上	孤さ	著 的	
		健 糞	推	の	独れ	にな	
		康 #	が	困	が	○ 困	
		^ <u>I</u>	Ē	難	強	強 難	
		の複	复	が	い	いが	
		影		強			
		響		い			

表中の値は「全体に占める割合」以外は度数を示す

次に様々な調査項目について CL によってどのような特徴があるかについて目を向けてみました。その結果をまとめると以下のようになります。

項目	選択肢	CL1	CL2	CL3	CL4	CL5	計
	第1層(~21歳)	46.7%	24.2%	18.2%	47.4%	13.3%	28.6%
年齢	第2層(22~30歳)	46.7%	63.6%	54.5%	42.1%	86.7%	60.3%
	第3層(31歳~)	6.7%	12.1%	27.3%	10.5%	0.0%	11.1%
性別	女性	0.0%	33.8%	9.1%	11.1%	20.0%	23.3%
נימבו	男性	100.0%	66.2%	90.9%	88.9%	80.0%	76.7%
社会的養護経験年数(年数)	平均	2.64	8.05	7.36	7.21	10.20	7.63
江五时发版作家干级(干级)	標準偏差	2.58	5.98	6.79	5.01	6.89	6.00
	乳児院	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
	里親家庭	12.5%	7.5%	8.3%	15.8%	0.0%	8.5%
	児童養護施設	25.0%	57.5%	50.0%	47.4%	80.0%	54.2%
	自立援助ホーム	37.5%	3.8%	25.0%	5.3%	6.7%	9.9%
最後に経験した	児童自立支援施設	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
社会的養護	ファミリーホーム	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
	母子生活支援施設	0.0%	6.3%	0.0%	10.5%	6.7%	5.6%
	児童心理治療施設	0.0%	1.3%	0.0%	5.3%	0.0%	1.4%
	一時保護所	6.3%	3.8%	0.0%	15.8%	0.0%	4.9%
	わからない	18.8%	16.3%	16.7%	0.0%	0.0%	12.7%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.7%
最終学歴	中卒・高卒	81.3%	61.5%	84.6%	77.8%	73.3%	69.3%
227 7 02	大学等卒	18.8%	38.5%	15.4%	22.2%	26.7%	30.7%
職場における不当な扱い,解雇の経験がある		15.4%	14.3%	22.2%	50.0%	16.7%	19.8%
	関係は良好になった	0.0%	2.6%	15.4%	5.3%	6.7%	4.3%
	コロナ前後で変わらず、関係は良い	37.5%	51.3%	23.1%	10.5%	46.7%	41.1%
同居家族や同居者との関係	コロナ前後で変わらず、関係は悪い	12.5%	7.7%	15.4%	26.3%	0.0%	10.6%
	関係は悪化した	18.8%	1.3%	7.7%	5.3%	0.0%	4.3%
	同居家族や同居者はいない	31.3%	34.6%	38.5%	52.6%	33.3%	36.9%
	その他	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	13.3%	2.8%
	よくあてはまる	25.0%	8.8%	30.8%	5.3%	6.7%	11.9%
きょうだいや仲間とのつながりに	あてはまる	25.0%	31.3%	23.1%	47.4%	26.7%	31.5%
大きな影響がある	あまりあてはまらない	18.8%	36.3%	30.8%	5.3%	33.3%	29.4%
	全然あてはまらない	12.5%	21.3%	0.0%	15.8%	20.0%	17.5%
	わからない	18.8%	2.5%	15.4%	26.3%	13.3%	9.8%
	よくあてはまる	56.3%	6.3%	30.8%	26.3%	6.7%	16.8%
他のおとなとのつながりに	あてはまる	18.8%	37.5%	23.1%	52.6%	46.7%	37.1%
大きな影響がある	あまりあてはまらない	6.3%	31.3%	15.4%	0.0%	26.7%	22.4%
	全然あてはまらない	12.5%	21.3%	15.4%	15.8%	13.3%	18.2%
2. 声も蛙神的も ケマやももい ヒリング	わからない	6.3%	3.8%	15.4%	5.3%	6.7%	5.6%
	グを受けることができずに困っている	62.5% 6.3%	6.9%	45.5%	44.4%	15.4%	23.1%
相談や支援を受けられるケースワーカーや施設職員・里親がいる			32.5%	0.0%	26.3%	46.7%	27.3%
何かあった時にアドバイスやサポートを求められる人がいる アドバイスやサポートをしてくれる親戚や家族がいる			30.0%	30.8%	15.8%	20.0%	25.9%
			31.3%	7.7%	10.5%	33.3%	24.5%
アドバイスやサポートを頼りにできる友人(交際している人)がいる 助け合えるまたらだい。朝佐がいる			36.3%	7.7%	21.1%	20.0%	28.0%
助け合えるきょうだい・親族がいる	71.2	12.5%	22.5%	23.1%	5.3%	13.3%	18.29
(ほとんど) 自分だけでどうにかして	いっ	56.3%	28.8%	69.2%	57.9%	26.7%	39.2%
生活保護を受給中		12.5%	7.7%	16.7%	10.5%	13.3%	10.09
(利用可能な) 公的支援を知らない		43.8%	10.3%	8.3%	5.3%	26.7%	15.09

3. 各クラスターの特徴

ここでは上の表からわかることをもとに、各クラスターの特徴を整理してみました。

(1) クラスター1:広く困難が重複し、精神的健康への影響が大きい群

- ・HL 項目において広く困難が重複しており、特にメンタルヘルスの不調を訴えている人が 多い。自由記述を見てもうつ、希死念慮、孤立・孤独感の強さ、不眠、摂食障害等、メン タルヘルス上の不調を訴える記述が多い。また医療やカウンセリングなど、ケアへのニー ズも高いがそれが受けられずに困ったという経験をしている。
- ・年齢層としては比較的若い層が多く、すべてが女性である。社会的養護経験は平均 2.64年と 5 群の中で最も短い(極端に短い)。また最後に生活した場所が自立援助ホームである割合が高い(4割)ことも特徴。
- ・最終学歴は高卒以下の人が約86%。現在大学等に在学している人が約19%と5群の中では比較的高め。
- ・他者とのつながり、特に家族、同居人、あるいはきょうだいや仲間以外の個人的なつながりに否定的な影響があったと感じている傾向がみられる。相談できるケースワーカーや施設職員、里親、あるいはその他の個人的なつながりがない人がほとんど。
- ・公的な支援(生活保護など)を受けている人は一部である一方、公的な支援を知らないという回答した人が6割と必要な支援に関する情報を手に入れることもできていない。

(2) クラスター2:比較的影響が少ない群

- ・HL 項目にほとんど HL 回答がなかった群。感染拡大長期化の影響はあまり受けていない人たちだと考えられる。
- ・他のクラスターに比べて男性の割合が高い。社会的養護経験の年数は 8.05 年と比較的長い。
- ・最終学歴が大卒等の割合は約38%と他のクラスターに比べると高い。
- ・コロナの心身の健康への影響を感じていない人が約72%と他のクラスターに比べると高く、メンタルヘルスケアへのニーズも低い。
- ・3 人に | 人は相談できるケースワーカーや施設職員、里親との関係を持っている。或いはその他にも助言やサポートを受けられると回答している人もおおむね 3 人に | 人程度で、自分だけでどうにかしているという回答は約 28%にとどまった。
- *このクラスターは「社会的養護経験者の中で相対的に適応的な人」というだけで、社会全体と比較したときにも適応的だと言えるとは限らないことに留意が必要。

(3) クラスター3:食や住まいなど生活上の困難が大きい群

・住宅、食生活について HL 項目において HL 回答が多かった人たちが含まれる CL で、 CLI についで HL 項目が多い。経済状況の困難さ、孤立孤独感の強さを訴える人も約3割と低くはない。

- ・年齢層、性別共に大きな特徴はない。
- ・最後に経験した社会的養護として自立援助ホームを挙げた人が約23%と比較的多め。
- ・大学等卒の割合はすべてのクラスターの中で最も低い(約 15%)が、現在在学中の人の割合は約 30%と 5 群で最も高い。学生層が多く含まれるクラスターだと考えられる。
- ・職場で不当な扱いを受けたとする回答は5群の中で2番目に多く、約22%。
- ・半数は心身への影響はないと回答している一方で、メンタルヘルスケアを受けられずに困っているという回答は約 45%で、精神的な健康への影響はばらつきがあるかもしれない (HL 項目に HL 回答というほど深刻な訴えを回答した該当者は少ない)。
- ・ケースワーカーや里親、施設職員との関係は維持されておらず、家族や親せきとの関係がある人、友人を有している人少なく、約7割(5群の中で最も高い)が自分だけでどうにかしていると回答している。頼る人がいないことが食や住まいなど生活上の困難さを大きくしていると考えられる。

(4) クラスター4:解雇を経験し、孤立・孤独感が強い群

- ・HL 項目の中で解雇されたと回答した人が約 47%と最も多く(他の CL にはほとんどいない)、孤立孤独感が 5 群の中で最も多く訴えられている。解雇により失職しているが、公的支援として失業保険を受けていると回答した人はいない。経済状況に関する困難の訴えもあるが、住まいや食に関する HL 項目への HL 回答は見られない。
- ・年齢層は 21 歳以下の割合が高い。性別には顕著な傾向はみられない。
- ・最後に経験した社会的養護が里親家庭、あるいは一時保護所と回答した人の割合がそれぞれ約 15%と5群の中で最も高い。
- ・心身への影響がないという回答は約33%で、3人に2人は何らかの影響があると感じている(5群の中で最も高い)。またメンタルヘルスに関するケアが受けられていないという訴えも高い。
- ・サポートを受けられる人がいるという回答は約 I5%にとどまり、特に親せきや家族、きょうだいからの支えが期待できない人たちである(助け合えるきょうだいや親せきを有している人はわずか約 5%)。自分だけでどうにかしているという回答も約 58%と高い。

(5)クラスター5:経済的な困難が顕著な群

- ・HL 項目の経済状況の苦しさ(と孤立・孤独)についての HL 回答が多かった CL だが、他の HL 項目への HL 回答は見られない。
- ・年齢性別に顕著な偏りはないが、31歳以上は含まれていない(相対的に若い人が多い)。 社会的養護経験の平均年数は 10.2 年と 5 群の中で最も長い。
- ・8 割が最後の社会的養護を児童養護施設と回答しており、5 群の中で最も高い (里親家庭 出身者はいない)。
- ・同居家族、同居人はいない、あるいは関係はコロナに関わらず良いという回答がほとんど。

- ・メンタルヘルスケアに関するニーズは高くない。またコロナの心身の健康への影響も顕著ではない。
- ・ケースワーカーや施設職員からの支援を受けられると回答した人が約 47%と 5 群の中で 最も高い。自分だけでどうにかしているという回答は 5 群の中で最も低く約 27%。社会 的養護にいた頃の支援者との関係が維持されている人がこの CL に含まれていると推察さ れる。

このように、感染拡大が長期化する中で、深刻な影響を受けていないと思われる人たちがいる一方で、いくつもの側面で深刻な影響を受け、生活が困難な状況に陥っていると推測されるような人たちがいることが分かりました。特に、困難な状況に陥っている人たちは広範囲にわたり、複数の領域で困難を経験していることが示されたわけですが、今回の調査からはそうした困難さにはそれまでの経験が何らかの影響を与えていることが推測されるような結果も示されました。「社会的養護経験者」とひとくくりにして考えるよりも、いくつかの特徴的な困難を経験している人たちという形に細分化して理解することやその困難さに応じた支援策について検討することが必要だ、ということが示唆されました。

参考資料

I. IFCA のこれまで

2013年の設立以降、社会的養護の当事者たちの社会参画を強調したプログラムづくりを 実施してきました。過去 16 回の交流事業を実施し、アメリカでの当事者活動のエッセンス を学び、日本の社会的養護実践および政策の発信を行ってきました。

具体的には、米国の当事者支援ツールであるストラテジック・シェアリング(安全で効果的な自己のストーリーの語り方、2015年)やパーマネンシーパクト(永続的な支援関係を約束するためのツール、2019年)の翻訳を行い、実践現場に届けてきました。また、交流を経験した当事者が、2019年日本財団主催子どもの権利法委員会委員、厚生労働省児童部会社会的養育専門委員会の委員に就任し、政策への提言を行っています。

IFCA の web サイトはこちら → https://ifcajapan.org/

2. この調査にかかわった人たち

当事者メンバー:原田理沙・布施響・香坂・みき・山本愛夢

専門職メンバー:井出智博(北海道大学)・岡 桃子(埼玉県立大学)

小山田育(クリエイティブ・ディレクター)・佐藤 葵(子どもの虹情報研修センター)

長瀬正子(佛教大学)・永野 咲(武蔵野大学)

橋本愛美(SOS 子どもの村 JAPAN)・畠山由佳子(神戸女子短期大学)

以上、五十音順

IFCA プロジェクトC 問い合わせ担当:井出・永野・長瀬・畠山 ifcaprojectc@gmail.com

この調査は日本財団の助成によって実施されました。



3. 調査内容

第2回 新型コロナの感染拡大による あなたの生活への影響についての緊急調査・2021 一過去に社会的養護を経験したことのあるみなさんへ一

メッセージ

I F C A プロジェクト C ~ 社会的養護の当事者の「声」と「声」をつなぐ ~

! 今年もアンケートへの協力をお願いします・謝礼あり! ! 昨年度調査に回答した方限定!

2021年7月31日正午 締め切り

問い合わせ先: 井出・永野・長瀬・畠山 ifcaprojectc@gmail.com

同意文/ボタン 削除

<回答する前に必ず読んでください>

このアンケートは、2020年の調査に回答いただいた方だけにお送りしております。去年回答していない方は回答できません。

アンケート への参加はあなたの自由です

このアンケートに協力するかどうかはあなたが自由に決めることができます。もし、参加しなくても、あなたの不利益にはなりません。

また、アンケートを配ってくれた団体にも、あなたが回答したかどうかや、回答の内容は知らされません。

回答した後に気持ちが変わったら、締め切りから<u>2週間以</u> 内であれば、回答を取り消すこともできるので≪問い合わ せ先≫にご連絡ください。

アンケート の目的

新型コロナウィルス感染症(COVID-19)(以下、新型コロナ)は、依然として世界的・全国的に流行し、すべての人の生活に影響を及ぼしています。私たちは、この大変な時期に、児童養護施設や里親家庭など社会的養護での生活を経験した皆さんが、どのように生活しているのかを知りたいと思っています。

特に、昨年行った調査との比較とともに、住居、食料、教育、仕事、経済の状況、健康、個人的なつながりに関して、皆さんの経験を学び、皆さんとともに必要な支援を考えていきたいと思っています。そのために、必要な支援を社会に訴えたり、社会福祉に関する学会や学術誌で報告する予定です。

アンケート の内容

このアンケートの対象は、昨年のこの調査に回答いただい た方のみです。

アンケートのお知らせメールが届いた方以外からの回答は 受け付けられません(謝礼をお送りできません)。他の方へこの調査を紹介しないでください。

※去年、対象としていたのは過去に社会的養護を経験したことのある16歳以上40歳未満の方でした。

・・・調査対象者となるのは、<u>過去に</u>次の社会的養護を経験された方々です・・・

乳児院 里親家庭 児童養護施設 自立援助ホーム 児童自立支援施設

ファミリーホーム 母子生活支援施設 児童心理治療 施設 一時保護所

このアンケートへの回答は1人1回だけです。 すべての質問に回答するには15分程度かかります。 アンケートに回答しないことも選択できます。回答するの が難しいと感じる場合は、回答せず次の質問に進むことが

できます。また、いつでも参加をやめることができます。

お礼

回答のお礼に<u>1500円のギフトカードをメールでお送りします。</u>

ご希望の方は、アンケートの最後の設問で送付先(メールアドレス)をおしえてください。

あなたの回答は他の人には知られません

アンケートの回答は匿名(とくめい)で行われ、皆さんの個人情報が特定されることはありません。お礼を送るために記入された連絡先情報は、ギフトカードの送付に使用するためです。あなたの個人情報と回答が関連づけられることはありません。

守秘義務(しゅひぎむ)

このアンケートはインターネットを使用しています。さまざまな方法で、データが守られるよう工夫をしています。例えば、このアンケートで集めたデータは、パスワードを使用して担当者だけが利用できるようにします。

結果の公表

アンケートから得られた結果は、必要な支援を訴えるためにホームページなどで公表する予定です。また社会福祉に関する学会や学術誌、研修会などで報告する予定です。その場合でも、参加者の個人情報や誰が調査に参加したかについての情報は公開されません。同様に、この調査の報告書や出版物においても、回答者が特定されることはありません。

≪お問い合せ先≫

質問や心配な事がある場合は、I FCAプロジェクトC(i

fcaprojectc@gmail.com) にメールでお問い合わせください。

もしあなたが、支援やサポート 情報が必要な場合には、「 Project C: つながろう!プロジェクト 特設サイト 」をご参 照ください 。(http://www.ifca-projectc.org/)

※この調査の実施は、武蔵野大学人間科学部研究倫理審査(2020-0 2-03)を受けています。

また、調査は日本財団の助成により実施しています。

同意する

回答を やめる 回答する

改ページ

スマートフォンで回答する方は、画面を横向きにすると回答しやすいです!



Section1 基本情報

Q1. あなたが現在住んでいる都道府県はどこですか?	
選択してください	
Q2. あなたの年齢は何歳ですか?	
選択してください	
Q3 . あなたの性別は何ですか?	
男性	
女性	
回答したくない	
その他	

いる いない 編集 削除 この質問を表示する条件 "Q4" で "いる" を "選択した" Q5. 同居している・扶養している子どもは何人ですか? 選択してく ださい **編集 削除** この質問を表示する条件 "Q4" で "いる" を "選択した" Q6. 子育てを代わってくれる人・手伝ってくれる人(配偶者・恋人・自分の親・友人など)はいます か? いる いない その他

Q4. 同居している・扶養している子どもはいますか?

編集 削除 この質問を表示する条件 "04"で"いる"を"選択した"

Q7. 新型コロナの長期化は、あなたの子育でに対してどんな影響を与えましたか?

とても良い影響を与えた
どちらかというと良い影響を与えた
影響はなかった
どちらかというと悪い影響を与えた
とても悪い影響を与えた
その他

編集 削除	
Q8.	
	>新型コロナがあなたの子育てにどのような影響を与えたかについて、詳細をおしえ
てください。	
てください。	
てください。 	
てください。 	
てください。)文字	

編集 削除 他の選択肢と同時に選べない選択肢"わからない"

Q9. あなたはどの社会的養護での生活を経験しましたか? (複数選択)

乳児院

里親家庭

児童養護施設

自立援助ホーム
児童自立支援施設
ファミリーホーム
母子生活支援施設
児童心理治療施設
一時保護所
わからない
その他

Q10. あなたが<u>最後に</u>経験した社会的養護はどれですか?1 つだけ選んでください。

乳児院

里親家庭

児童養護施設

自立援助ホーム

児童自立支援施設

ファミリーホーム

母子生活支援施設

児童心理治療施設

一時保護所

わからない

その他

Q11.

あなたが最後に経験した社会的養護の場所はどこですか?都道府県をおしえてください。

選択してください

Q12. あなたの社会的養護での生活は合わせてどのくらいの期間でしたか?

選択してください

これで基本情報についての設問は終わりです。次は基本的な衣食住についておたずねします。

Section 2 基本的な衣食住について

Q13. あなたが現在住んでいるところはどこですか?

児童養護施設などの児童福祉施設

里親家庭・ファミリーホーム

大学(短大・専門学校)の寮

社員寮・職員寮

自分の家やアパート

交際している人の家

親・親戚等の家

友人の家などを転々としている

ネットカフェ・ホームレス

その他

Q 1 4. 2020(令和2)年4月(去年の春頃)にあなたが住んでいたのはどこですか?

児童養護施設などの児童福祉施設

里親家庭・ファミリーホーム

大学(短大・専門学校)の寮

社員寮・職員寮

自分の家やアパート

交際している人の家

親・親戚等の家

友人の家などを転々としていた ネットカフェ・ホームレス その他

Q15. 新型コロナの長期化で、あなたの生活や住まいにどんな影響がありましたか?

新型コロナが流行してからも、私の生活・住まいに変化はない 現在の生活状や住まいの状況が悪くなりそうだ 新型コロナ流行の影響で住まいを失うことになった

その他

0.16

生活・住まいの状況は、2020(令和2)年7月(去年の今頃)と比べてどのように変化しましたか?

とても良くなった

まぁまぁ 良くなった

変わらない

まぁまぁ悪く なった

とても悪くなった

その他

Q17. あなたの現在の食料は足りていますか?

食料は十分にある 食料はなんとか確保できる 食料を確保するのが難しい 食べ物がない。ピンチです

-	その他
Q18	
	・ 状況は、2020(令和2)年7月(去年の今頃)と比べてどのように変化しましたか?
Ş	とても良くなった
-	まぁまぁ 良くなった

Q19. 新型コロナの長期化によるあなたの衣食住について

よくあてはまる あてはまる あまりあてはま 全然あてはまら わからない らない ない

新型コロナは私の住宅事情に大きな影響を与えている

新型コロナは私の食生活に大きな影響を与えている

私は、住まいやその他の基本的に必要なことのために個人的な支援を受けることができる

Q20.

変わらない

その他

まぁまぁ悪くなった とても悪くなった

<自由回答>新型コロナの長期化があなたの衣食住にどのような影響を与えたかについて、詳細をおしえてください。

0文字

これで基本的な衣食住についての設問は終わりです。次は教育の状況についておたずねします。

Section 3 教育の状況

Q21. あなたの最終学歴または資格は何ですか?

中学卒業

高校在学中

高校中退

高校卒業

高卒認定資格

短期大学・専門学校・大学在学中

短期大学・専門学校・大学中退

短期大学卒

専門学校卒

大学卒

大学院在学中

大学院修了

その他

Q22. 新型コロナ流行直前の(2019年12月頃)のあなたの教育状況はどれですか?

中学校に通っていた

高校に通っていた

職業訓練に通っていた

大学・短大・専門学校・大学院に通っていた

通信制・夜間の大学・短大・専門学校・大学院に通っていた

どの教育機関にも所属していない その他

Q23. 今のあなたの教育状況はどれですか?

中学校に通っている

高校に通っている

職業訓練に通っている

大学・短大・専門学校・大学院に通っている

通信制・夜間の大学・短大・専門学校・大学院に通っている

どの教育機関にも所属していない

その他

Q24. 教育の状況は、新型コロナの長期化でどのように変化しましたか?

問題なく継続している・無事に卒業した・無事に進学した 大変なこともあったが、なんとか継続している・卒業した・進学した 変わらない

大変なことがあり、継続・卒業・進学が難しくなっている 休学しているが、復学の予定がある 休学しており、復学の予定がたたない

退学になった・進学を断念した

その他

Q25. 新型コロナの長期化による教育の状況について

よくあてはま あてはまる あまりあては 全然あてはま わからない る まらない らない

私の学校・教育機関は、新型コロナ危機の期間中、私とのコミュニケーションを大切にして くれる

新型コロナは、私の勉学の進行に大きな影響を与えている

私の勉学の目標が達成できるように、個人的なサポートを受けることができる

Q26.

新型コロナの影響でオンライン授業が推進されています。学習に必要な機材および学習環境についておしえてください

いつでも使える 使えない時がある ない

スマホ・携帯電話

インターネット

コンピュータ

オンライン授業に集中できる空間

	利用している
	利用していない
	わからない
	その他
Q 2	
	由回答>新型コロナの長期化があなたの教育の状況にどのような影響を与えたかについて、 に詳細を記入してください
文:	7
	で教育の状況についての設問は終わりです。
	で教育の状況についての設問は終わりです。 仕事と経済状況についておたずねします。
次は	
次は	仕事と経済状況についておたずねします。
次は	仕事と経済状況についておたずねします。
次は	仕事と経済状況についておたずねします。
次は Se(仕事と経済状況についておたずねします。 stion 4 仕事と経済状況
炊は Se(仕事と経済状況についておたずねします。 tion 4 仕事と経済状況 9.
炊は Se(仕事と経済状況についておたずねします。 stion 4 仕事と経済状況
炊は Se(仕事と経済状況についておたずねします。 tion 4 仕事と経済状況 9.

自営業で働いていた 働いておらず、求職中だった 働いておらず、求職中ではなかった(専業主婦・主夫など含む) その他

Q30. 今のあなたの仕事の状況はどのようなものですか?

正規職員で働いている

パート・アルバイトで働いている(単発・学生バイトも含む)

契約社員で働いている

派遣社員で働いている

自営業で働いている

働いておらず、求職中である

働いておらず、求職中ではない(専業主婦・主夫など含む)

その他

	新型コロナの長期化はあなたの仕事にどんな影響を与えましたか?(該当するものにすべてチェクを入れてください) (複数選択)
	私の仕事は新型コロナの影響を受けていない
	新型コロナの影響で解雇された
	新型コロナの影響で収入が不安定になった
	新型コロナの影響で時間・収入が大幅にカットされた
	新型コロナの影響で解雇されそうだ、あるいは著しい減給がありそうだ
	新型コロナの就職への影響については、まだよくわからない
	新型コロナ以前は仕事をしていなかった
	その他
	//
	Q32.
	Q32 . 新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりしかことはありますか?
_	新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりし <i>†</i> ことはありますか?
	新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりしたことはありますか? ある
	新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりしたことはありますか? ある ない
	新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりしたことはありますか? ある ない わからない
	新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりしたことはありますか? ある ない わからない
	新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりしたことはありますか? ある ない わからない
	新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりしたことはありますか? ある ない わからない その他
	新型コロナが長期化したことによって、職場によって不当な扱いを受けたり、解雇されたりしたことはありますか? ある ない わからない その他

Q34.

新型コロナ流行以前(2019年12月)に、以下のいずれかの公的支援を受けていましたか?

生活保護を申請中あるいは申請予定だった

生活保護を受給中だった

失業保険を申請中あるいは申請予定だった

失業保険を受給中だった

生活福祉資金制度を申請中あるいは申請予定だった

生活福祉資金制度を受給中だった

その他の公的支援

これらの公的支援はどれも受けていない

編集 削除 他の選択肢と同時に選べない選択肢 "必要としていない" "これらの公的支援を知らない" "なんらかの公的支援の申請を終計している"

Q35.

新型コロナの長期化によって、今まで受けていなかった公的支援が必要になりましたか? (複数選択)

必要としていない

生活保護を申請中あるいは申請予定

生活保護を受給中

失業保険を申請中あるいは申請予定

失業保険を受給中

生活福祉資金制度を申請中あるいは申請予定

生活福祉資金制度を受給中

これらの公的支援を知らない

その他の公的支援を申請した

公的支援を受けようとして、断られた

なんらかの公的支援の申請を検討している

今後	3か月以上安定している	ると思う			
今後	1か月くらいは大丈夫が	だと思う			
今後	1か月以内にはお金がた	なくなりそう			
現在	、お金に困っている				
その	他				
007	新型コロナの長期化し	ことろ怒客的問題	陌・什事への影響	ニ ついて	
Q37.	初至コロアの区別間	~ 20 ・20 ・20 ・20 ・20 ・20 ・20 ・20 ・20 ・20 	⊠ 正 ず 107ぶ2首	12 30 2	
	よくあてはま る	あてはまる	あまりあては まらない		わからな
私の雇用	用主は、危機の中で私と	とうまくコミュニ	ニケーションをと	ってくれた	
新型コロ	コナは私の経済的な状況	兄に大きな影響を	を与えている		
個人的權	なサポート を利用して、	経済的に安定す	けることができた		
	コナの長期化があなたの; 団を記入してください。	経済状況・仕事 <i>0</i>)状況に与えた影響	厚、また受けたサオ	ポート につい
0 文字				de la companya de la	

これで仕事と経済状況についての設問は終わりです。 次は心と身体の健康についておたずねします。

Section 5 心と身体の健康

Q39. あなたの現在の健康保険の状況はどのようなものですか?

健康保険に入っている

健康保険に入っているかどうかわからない

健康保険に入っていない

その他

Q40. <u>新型コロナ流行以前(2019年12月)</u>の身体と心の健康状態を教えてください。

とても良かっ どちらかとい どちらともい どちらかとい とても悪いた えば良かった えなかった えば悪かった

身体の健康

心の健康

Q41. 現在の身体と心の健康状態を教えてください。

とても良い どちらかとい どちらともい どちらかとい とても悪い えば良い えない えば悪い

身体の健康

心の健康

Q42. 新型コロナの長期化はあなたの健康管理にどのような影響を与えましたか? (複数選択)						
必要な医療が受けられず困っている						
自分に必要な精神的なケアやカウンセリングを受けることができずに困っている						
必要な薬が手に入らなくて困っている						
新型コロナの流行は私の身体の健康や精神的なケアに影響を与えていない						
その他						
Q43. ここ2週間のあなたの心の状態について						
よくあてはま あてはまる あまりあては 全然あてはま わからない る まらない らない						
何かをすることに興味や喜びを感じることがほとんどなくなった						
落ち込んだり、鬱(うつ)っぽくなったり、絶望的な気分になったりする						
緊張(きんちょう) したり、不安になったり、精神的に追いつめられている						
悩むのをやめられなかったり、心配するのを抑えることができない						
Q44. 新型コロナの長期化があなたの身体と心の健康にどのような影響を与えたか、その他の詳細をご記入ください。						
0文字						
これで心と身体の健康についての設問は終わりです。 次は個人的な人とのつながりについておたずねします。						

Section 6 個人的な人とのつながり

Q45. 現在のあなたの個人的なつながり(相談できる相手など)はどのような状況ですか? $({\hbox{\scriptsize [複数選択)}})$

相談や支援を受けられるケースワーカーや施設職員・里親がいる 何かあった時にアドバイスやサポートを求められる人がいる アドバイスやサポートをしてくれる親戚や家族がいる アドバイスやサポートを頼りにできる友人(交際している人)がいる 助け合えるきょうだい・親族がいる 新型コロナ危機のなか、もっと多くの人とのつながりがほしかった 自分だけでどうにかしている、または、ほとんど自分だけでどうにかしている その他

Q46.

新型コロナの長期化によって、あなたの現在の同居家族や同居者との関係に影響がありましたか?

関係は良好になった

- コロナ前後で変わらず、関係は良い
- コロナ前後で変わらず、関係は悪い

関係は悪化した

同居家族や同居者はいない

その他

Q47. 同居家族や同居者との関係について誰かに相談することができますか? (複数選択)

相談や支援を受けられるケースワーカーや施設職員・里親がいる 何かあった時にアドバイスやサポートを求められる人がいる アドバイスやサポートをしてくれる親戚や家族がいる アドバイスやサポートを頼りにできる友人(交際している人)がいる 助け合えるきょうだい・親族がいる 新型コロナ危機のなか、もっと多くの人とのつながりがほしかった 自分だけでどうにかしている、または、ほとんど自分だけでどうにかしている その他

Q48. 新型コロナが長期化する中での個人的な人とのつながりについて

よくあてはま あてはまる あまりあては 全然あてはま わからない る まらない らない

新型コロナは、きょうだいや仲間との個人的なつながりに大きな影響を与えている

新型コロナは、他の大人との個人的なつながりに大きな影響を与えている

Q49.

<u>新型コロナ流行以前(2019年12月)</u>に、孤立・孤独感をどのくらいの頻度で感じていたか、教えてください。

常にあった 時々あった どちらともい ほとんどなか 全くなかった えなかった った

コロナ流行以前

	常にある	時々ある	どちらともい えない	ほとんどない	全くない
現在					
編集 削除					
(U U I .	新型コロナの流行が∮ ^(複数選択)	長期化する中で	、コミュニケーシ	ョンの状況はどう	ですか?
スマホ	携帯電話をいつで	も使うことがて	きる		
インタ	ーネット をいつでも	使うことができ	る		
パソコ	ンをいつでも使うこ	とができる			
その他			//		
上記の	どれもない				
Q52. 新型コロナの	D長期化があなたの他	の人とのつな:	がりにどのような	影響を与えたか	詳細をご記入
ください。	2 2000 12 05 00 1C 05 1C		· / / - C · / · / · ·	W E C Jiele (IT THE C HOVE
0 文字					
_					_
これで個人	的な人とのつなが	りについての	設問は終わりで	す。	

Q50. 現在、孤立・孤独感をどのくらいの頻度で感じているか、教えてください。

おわりに・・・

このアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。 あなたの回答は、新型コロナ流行に対する、社会的養護での生活を経験した若者のニーズを検討するために役立てます。 たくさんの時間を使ってご協力くださったことに感謝します。

1500円のギフトカードを希望する人は、お名前、メールアドレスと携帯電話の番号をご記入ください。アンケートへの回答は1人1度までです。

Q53. ギフトカードの送付を希望しますか?

はい

いいえ

Q54.

ギフトカードの送付情報(記入したあなたの個人情報は、ギフトカードの送付に使用します)。 パソコンからのメールを受け取れる状態にしておくようお願いします。

パソコンからのメールを受け取れる状態にしてお名前 * フリガナ * メールアドレス * (E-mail) 電話番号 *

Q55.

IFCAが作成している「つながろうプロジェクト」WEBサイトについてのご意見をお聞かせください。

アクセスして、情報を得ることができた アクセスしたが、内容は確認していない アクセスしていない

Q56.

「つながろうプロジェクト」サイトへのご感想・ご意見がありましたらお書きください。

0文字

「 つながろうプロジェクト 」のサイト はこちらから ↓

https://www.ifca-projectc.org

情報更新してます!



ご協力ありがとうございました。

ギフトカードの送付を希望された場合、2週間を目安にご記入いただいたメールアドレスに情報をお送りいたします。

今後も引き続き支援の情報が必要な場合には、webサイト「Project C: つながろう! プロジェクト 特設サイト」をご覧ください。 http://www.ifca-projectc.org/

